

4. 地方からの便り

富山県婦人防火クラブ連絡協議会創立20周年記念式典

富山県 富山県婦人防火クラブ連絡協議会



7月13日(日)、富山市のとやま自遊館を会場に「富山県婦人防火クラブ連絡協議会創立20周年記念式典」が開催されました。

この記念式典は、昭和58年に設立以来、様々な活動を通じて火災予防思想の普及、火災や災害のない魅力ある地域づくりに取り組んできた当協議会の今後のさらなる飛躍を誓うことを目的に行われ、来賓や県内のクラブ員など約600名が参加しました。

オープニングとして、運営委員が「防火のすすめ」を合唱、松岡会長

の挨拶のあと、中沖豊県知事、北島秀一郎県議会議長、小林弘明財団法人日本防火協会常務理事から祝辞が述べられました。

また、石井消防長官から「安全・安心な地域づくりを目指して」と題して特別講演があり、「防災と福祉、防災と教育を結び付ける上で、婦人防火クラブの存在は大きい」とお話しになり、参加したクラブ員は改めて婦人防火クラブ活動の大切さを感じ取っていました。

この他、上村喬富山地方気象台長の記念講演、高岡市立博労小学校少年消防クラブによる火災予防研究発表、富山市消防音楽隊による演奏も行われました。



[▲ このページの上に戻る](#)



[\(画像をクリックすると拡大表示されます\)](#)

「災害に強い町、災害に強い市民づくり」をテーマとし、「みんなでなろう災害に強い有田市民」をスローガンとする『有田市消防フェスティバル2003』が7月13日(日)12時から、有田市右岸河川敷広場で行われました。

消防フェスティバルを通じて地域との交流を深め、市民の防災意識の向上を図り、災害のないまちづくりを推進することを目的とし、幼年消防クラブ員641名、婦人防火クラブ員169名ら、約3,660名が参加されました。

フェスティバルでは、アトラクショ

ンでの幼年消防クラブの鼓笛演奏及び演技、体験・展示コーナーでは消火器による初期消火、消防自動車体験、地震体験などの展示や体験が行われ、最後に、幼年・婦人及び市民に対する防火もちつき大会が行われました。

このフェスティバルを通じ、参加者の防火意識の普及、また災害のないまちづくりを推進することなど、火災予防に大きな効果が得られました。



[\(画像をクリックすると拡大表示されます\)](#)

[▲ このページの上に戻る](#)

第15回防災フェア

山口県 下関地区広域行政事務組合消防本部

市民の防災意識の啓発を図る防災フェアが平成15年6月21日(土)、下関市の下関競艇場において、開催されました。幼稚園児から自治会員まで約5千人が参加いたしました。



今回、第15回の節目であり、住宅防災機器コーナー及び、下関地方気象台による気象観測コーナー等、各種コーナーを増設しました。

また、平成17年下関市及び富



浦4町の市町村合併に鑑み、各町の婦人防火クラブ員及び消防団員等の参加を得て、婦人防火クラブ員によるフリーマーケットや、市及び各町の特産品コーナー等、新たなコーナーを設けたことにより、来場者から好印象が得られ、各コーナーとも長蛇の列ができ盛会でありました。

参加者は家族連れが多く、子供から大人まで楽しみながら、消火競技や防火遊戯、ちびっ子消防士体験など様々な催しを通じ、防火防災について学び所期の目的が達成できたものと思われま

[▲ このページの上に戻る](#)

寸劇で防火の約束

兵庫県 美方広域消防事務組合消防本部



平成15年7月9日（水）、当消防本部内浜坂町大庭保育所において「幼年消防クラブ防火教室」が開かれました。この防火教室は、平成3年より毎年7月7日、「七夕の日」の前後に実施されており、今回も消防職員が演じる消防「消ちゃん」・「サソリ」・「ゲンゴロウ」の衣裳でユーモアたっぷりの寸劇を通して、マッチやライターでいたずらをしないことや、天ぷらを揚げているときはその場を離れないことを、幼年消防クラブ員全員と、本日参加した保護者の間で堅い約束を

致しました。

[▲ このページの上に戻る](#)

一筆啓上火の用心サミット開催

福井県 丸岡町消防本部

「一筆啓上火の用心お仙泣かすな馬肥やせ」の手紙を長篠の合戦の陣から妻に送った徳川家康の家臣、本多作左衛門と嫡男で丸岡城主になった本多成重(幼名・仙千代)ゆかりの丸岡町など6市町の消防本部がこのほど、「友好都市宣言」に調印されました。自治体の消防本部間の友好提携は全国初ということです。

調印は平成15年7月4日(金)に丸岡町霞1丁目の「城の町会館」で催された「一筆啓上火の用心サミット」の席上で実施されました。

サミットは、丸岡町消防本部が、重次が生まれた愛知県岡崎市、手紙を出した同県新城市、隠居地の千葉君津市、死去した茨城県取手市、成重が生まれた静岡県浜松市の5市の消防本部に呼びかけ、6市町の消防長や消防団長ら20人余が出席し、震災時などの相互協力の重要性や、消防団員不足などの課題を話し合いました。

今後は大規模な震災時など、近隣の消防本部から応援がうけられない時に、相互に支援する協定締結も検討します。次回のサミットは3年後、岡崎市で開かれる予定です。



[▲ このページの上に戻る](#)

海のシーズンに備え、水難救助訓練実施

大阪府 泉佐野市消防本部



本格的なマリレジャーシーズンを迎え、泉佐野市消防本部では、7月2日(水)13時30分から、泉佐野市新浜町4番地の5先、北中通漁業組合前において、潜水救助訓練を行いました。

海岸と、ため池が多い泉佐野市では毎年多数の水難事故が発生し、平成13年7件、14年7件、15年は既に3件発生している状況であることから、今年も消防本部潜水救助隊員による潜水訓練を行って、水難事故に備えます。

13時30分、護岸から釣り人が海中に転落したとの想定で、りんくう消防署から水難救助車、救助工作車及び救急車、空港分署から水難救助車の計4台13人が出動し訓練がスタート。

水深約6mの海底はヘドロで、1mほどの視界の中を2人1組で2班編成した潜水隊員が海底での検索を繰り返し、救出した要救助者を引き揚げ、救急車に収容するまでの一連の活動を本番さながらで行

うと同時に、市民の見学者には救急・救助事故を発見すれば、直ちに119番通報するように広報を行い、訓練が終了しました。

手づくり消防艇で、水難事故防止をPR

兵庫県 揖南消防事務組合消防本部

7月27日(日)に行われた「いかだ下り」に揖南少年消防クラブが消防艇を模した真っ赤ないかだと救急車をイメージした真っ白ないかだの2艘で出場しました。

ゴール近くになると、真っ赤ないかだからは前方と左右への一斉放水が始まり、見学者からは歓声が起こっていました。舟の側面に描かれた「水の事故防止」との安全メッセージとともに、クラブの存在を大きくアピールしていました。



安全な地域社会づくりを目指して

宮城県 気仙沼・本吉地域広域消防本部



昭和56年8月、安全な地域社会づくりの願いを込め、気仙沼市・唐桑町・本吉町・志津川町・歌津町・津山町の1市5町の婦人防火クラブがひとつの輪となり、構成された気仙沼本吉地区婦人防火クラブ連合会も今年で23年目を迎えました。

クラブ員も13,000名を越え、ますます充実した防火クラブへと進展しています。

また、発足当初から毎年実施している婦人防火クラブ連合大会「防火のつどい」を今年6月29日(日)に開催しました。

この大会は、家庭において火気を取り扱う機会が多い婦人が、防火、防災に関する知識を習得し、火災その他の災害から家庭を守り、安全な地域社会づくりを目指すとともに、各クラブ相互の連帯と親睦を深めることを目的として実施しています。

大会は、婦人防火クラブ員・少年消防クラブ員・来賓等の550名が参加し、2部構成で、第1部の

式典・講演会と第2部のアトラクション大会を盛大に実施しました。

第1部では開会宣言に始まり、共催関係者のあいさつ、防火思想の普及に努めた個人や団体の表彰、祝辞、婦人防火クラブ員3名による意見発表が行われ、日ごろの防火意識の大切さや、地域ぐるみで協力する大切さを訴えられました。

その後、参加者全員による防火宣言に続き地元講師の本吉町国際交流協会会長山内義夫先生による「金の卵－その夢と涙－」と題した講演が行われました。

午後からの第2部アトラクションは各地区の防火クラブ員がこのときばかりと工夫をし、練習を重ねた選りすぐりの芸が披露されます。今年は地元の少年消防クラブ員も参加し7団体が出場して、防火をテーマにした歌や踊りを披露しました。

初めに地元の少年消防クラブ約40人による郷土芸能「火伏の獅子舞」では、熱演に大きな拍手が送られました。

この大会を通じて、参加者全員が、防火意識の再認識と向上を図ることができ、さらに親睦を深め連帯感もより強固になったと思います。



▲ [このページの上に戻る](#)

目次

- [1. 9月9日「救急の日」の前後に婦人防火クラブ員救急講習会の実施](#)
- [2. 「消防・救急に関する世論調査」結果の概要](#)
- [3. 『火の用心は、してきたの?』](#)
4. 地方からの便り
- [5. あなたも危険物取扱者・消防設備士に](#)
- [6. 日本防火協会からのお知らせ](#)